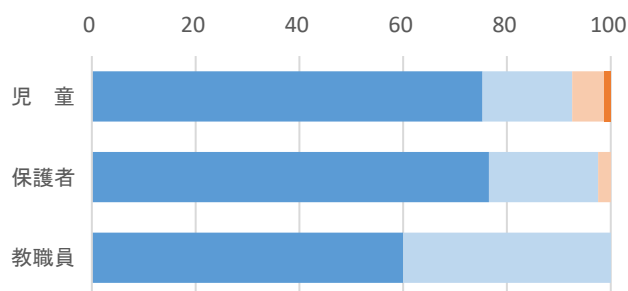


質問 1 全般 に関する項目

- (児 童) あなたは、毎日楽しく学校に通うことができますか。
 (保護者) お子さんは、楽しく学校に通っていますか。
 (教職員) 子ども達は、楽しく学校に通っていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
1	A	B	C	D
児 童	75.3	17.3	6.2	1.2
保護者	76.5	21.0	2.5	0.0
教職員	60.0	40.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○全体としての肯定的な意見は児童92.6%、保護者97.5%、教職員100%と非常に高い水準であることから、多くの児童は毎日楽しく学校に通っており、そのことを保護者も教職員も同様に感じているといえる。

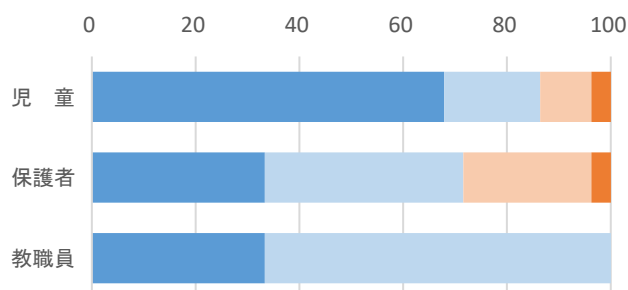
●個別にみると、学年によってC・D群の回答がある。児童の発するサインに教職員・保護者が気づいていない可能性もある。改めて児童と向き合うこと、心を寄せて接していくことの意識化を図りたい。

質問 2 全般 に関する項目

- (児 童) あなたは今、将来の夢や目標を持って生活していますか。
 (保護者) お子さんは、現在夢や目標を持って生活していますか。
 (教職員) 子ども達は、現在夢や目標を持って生活していますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
2	A	B	C	D
児 童	67.9	18.5	9.9	3.7
保護者	33.3	38.3	24.7	3.7
教職員	33.3	66.7	0.0	0.0

(%)



○全体としての肯定的な意見は児童86.4%、保護者71.6%、教職員100%である。

○昨年度に比べ児童は-3.7%であるのに対し、保護者は+6.1%であることから、学校での取り組みが、学級だより等を通して家庭にも浸透してきたことがうかがえる。

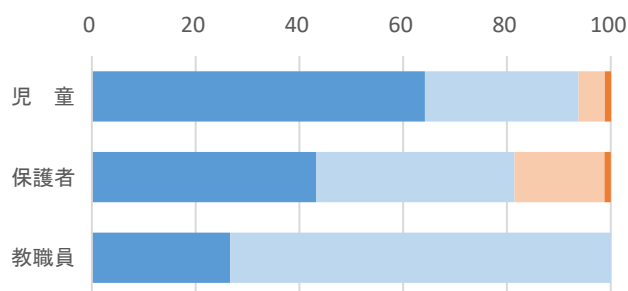
●行事等に向けての児童のめあて・目標や振り返りのフィードバックを、全学年で継続して学級だより等を通して家庭に発信していくことで、児童や教職員が抱く達成感や新たに見えた課題を一層家庭と共感的に共有することができるようにしていく。

質問3 | | |----| | 学習 | |----| に関する項目

- (児童) あなたは、授業は分かりやすいですか。
 (保護者) お子さんは、授業が分かりやすいと言っていますか。
 (教職員) 子どもたちは、授業が分かりやすいと言っていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
3	A	B	C	D
児童	64.2	29.6	5.0	1.2
保護者	43.2	38.3	17.3	1.2
教職員	26.7	73.3	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

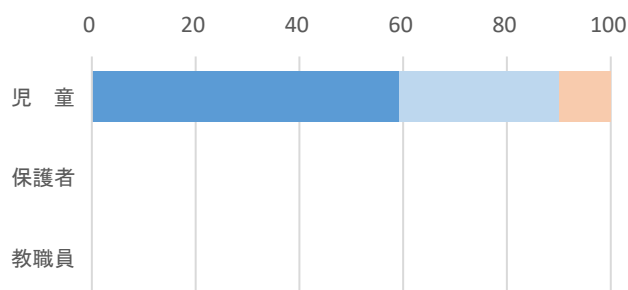
- 肯定的な意見は児童93.8%、保護者81.5%、教職員100%である。
 ○この評価から、学校ではおおむね児童が「分かる」授業を展開しているということがいえる。
 ●一方、保護者のC・D群18.5%は、授業参観または日常の家庭学習への児童の取り組みを目の当たりにしている評価であると受け止めている。今後も個に応じた個別最適な学びの在り方を、家庭と学校が連携しながら構築していきたいと考えている。

質問4 | | |----| | 学習 | |----| に関する項目

- (児童) あなたは、授業では話し合い活動に積極的に取り組んでいますか。
 (保護者) 【※ 児童のみ回答】
 (教職員) 【※ 児童のみ回答】

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
4	A	B	C	D
児童	59.2	30.9	9.9	0.0
保護者				
教職員				

(%)



<学校コメント>

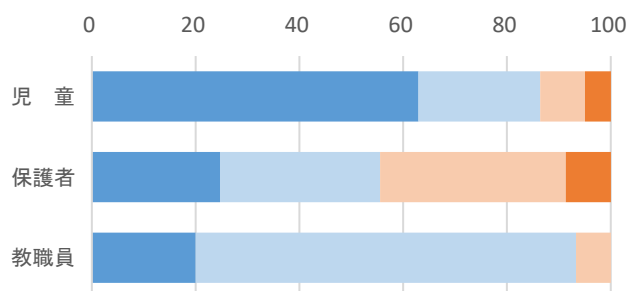
- 児童の肯定的な意見が90.1%となっている。昨年度に比べ+2.8%であることから、自分の思いや考えを相手に話すことについては昨年度からさらに向上しているといえる。
 ●コミュニケーションは、話し手と聞き手が互いに相手の話す内容を理解し合うことで深まっていく。本校の現状としては、話し手の思いや考えを述べるにとどまっている場面が依然として散見される。話し手が「相手に伝わるように伝える」意識をもつとともに、聞き手が「相手を理解するように聴く」意識を育てることが今後の課題である。

質問 5 | | |----| | 学習 | |----| に関する項目

- (児 童) あなたは、家庭学習を毎日目標時間以上していますか。
 (保護者) お子さんは、毎日決められた時間以上家庭学習をしていますか。
 (教職員) 子どもたちは、毎日決められた時間以上家庭学習をしていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
5	A	B	C	D
児 童	63.0	23.5	8.6	4.9
保護者	24.7	30.9	35.8	8.6
教職員	20.0	73.3	6.7	0.0

(%)



<学校コメント>

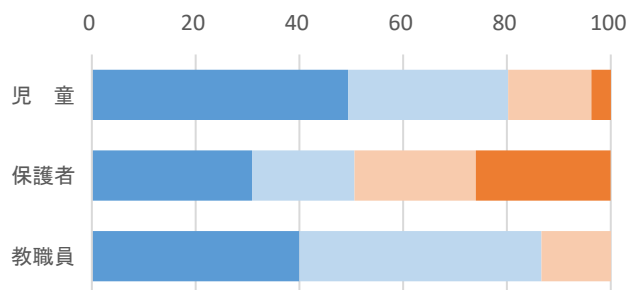
- 肯定的な意見は児童86.5%、保護者55.6%、教職員93.3%である。
 ○家庭学習に取り組んでいる児童と、取り組んだものを確認する教職員の評価から、各学年で「家庭学習のきまり」をおおむね意識をして取り組んでいるといえる。ただし、3者とも昨年度よりも低い水準となっている。
 ●保護者の評価から、「学習時間」を満たしているかどうかという「量的」な評価と、家庭学習への「取り組む姿勢」や「取り組んでいる内容」といった「質的」な評価が混在し、評価の焦点化が図られていなかった可能性がある。今後、適宜保護者の見取りを参考にしながら、家庭学習の充実に努めたい。

質問 6 | | |----| | 学習 | |----| に関する項目

- (児 童) あなたは、進んで本を読み読書を習慣にしていますか。
 (保護者) お子さんは、読書の習慣はありますか。
 (教職員) 子どもたちは、読書の習慣はありますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
6	A	B	C	D
児 童	49.4	30.9	16.0	3.7
保護者	30.9	19.8	23.4	25.9
教職員	40.0	46.7	13.3	0.0

(%)



<学校コメント>

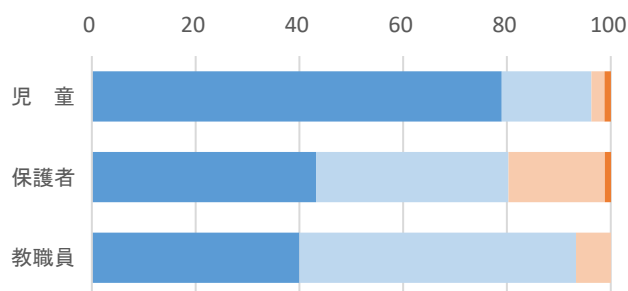
- 肯定的な意見は児童80.3%、保護者50.7%、教職員86.7%である。昨年度と比べると、児童-3.6%、保護者+0.2%、教職員-13.3%となっていることから、家庭における読書への取り組みは昨年度とほぼ同様であることが推察される。
 ●一方、児童・教職員がマイナス評価になっていることは、学校の教育活動全体を改めて見つけることが必要である。読書活動として設定されている時間が機能していない可能性がある。
 ●図書館支援員による読み聞かせなど、読書活動を推進する取り組みは実践しているので、児童を巻き込みながら読書習慣の形成を目指したい。

質問 7 礼儀・思いやり に関する項目

- (児 童) あなたは、周りの人に進んで気持ちの良いあいさつをしていますか。
 (保護者) お子さんは、気持ちの良いあいさつをすることができますか。
 (教職員) 子どもたちは、気持ちの良いあいさつをすることができますか。

	あてはまる	ややあてはまる あてはまる	ややあてはまらない あてはまらない	あてはまらない
7	A	B	C	D
児 童	79.0	17.3	2.5	1.2
保護者	43.2	37.1	18.5	1.2
教職員	40.0	53.3	6.7	0.0

(%)



<学校コメント>

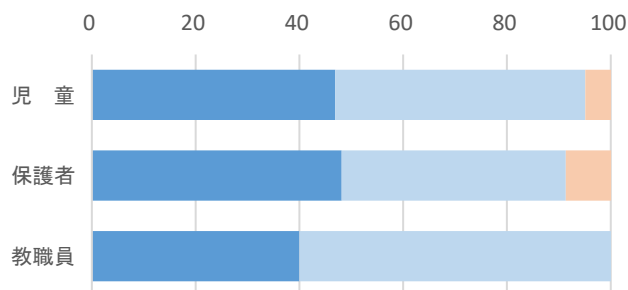
○肯定的な意見は児童96.3%、保護者80.3%、教職員93.3%である。昨年度と比べると、児童+5.5%、保護者-7.1%、教職員-6.7%となっている。
 ●「気持ちの良いあいさつ」とは、時と場に応じたあいさつであり、相手への敬意（大切に思う心）が込められているあいさつのことでもある。つまり、「気持ちの良いあいさつ」とは「他者意識が働いているあいさつ」といえる。日々の取り組みを絶えず振り返りながら、よりよいあいさつの在り方を模索していきたい。

質問 8 礼儀・思いやり に関する項目

- (児 童) あなたは、学校や家庭・社会のきまりを守って生活できていますか。
 (保護者) お子さんは、社会のきまりを守って生活できていますか。
 (教職員) 子どもたちは、社会のきまりを守って生活できていますか。

	あてはまる	ややあてはまる あてはまる	ややあてはまらない あてはまらない	あてはまらない
8	A	B	C	D
児 童	46.9	48.2	4.9	0.0
保護者	48.1	43.2	8.7	0.0
教職員	40.0	60.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

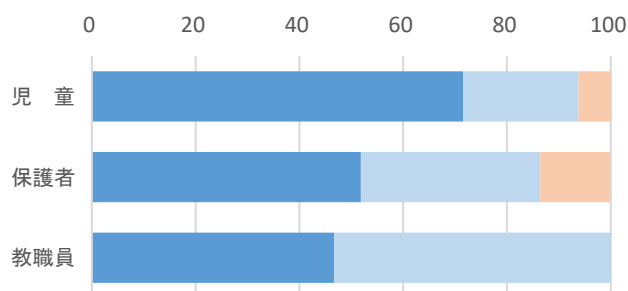
○肯定的な意見は児童96.5%、保護者95.4%、教職員100%である。A群について昨年度と比べると、児童-18.6%、保護者-1.3%、教職員+13.3%である。
 ●児童の自己評価が低下しているのに対して、教職員の自己評価が上昇していることから、教職員が児童のどのような姿を見取り、価値づけ、称賛しているのかを改めて見つめることが必要である。児童の行動を時機を逃さず見取り、価値づけ、称賛していくことのさらなる意識化を図っていくことで、児童の自己肯定感を高めていきたい。

質問9 礼儀・思いやりに関する項目

- (児童) あなたは、どんな人にも思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることができますか。
 (保護者) お子さんは、思いやりを持って接することができますか。
 (教職員) 子どもたちは、思いやりを持って接することができますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
9	A	B	C	D
児童	71.6	22.2	6.2	0.0
保護者	51.9	34.6	13.5	0.0
教職員	46.7	53.3	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

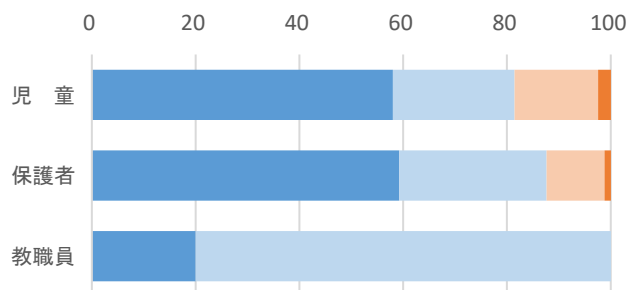
○肯定的な意見は児童93.8%、保護者86.5%、教職員100%である。昨年度と比べると、児童+0.7%、保護者-5.4%、教職員±0%であるが、保護者のC群は+5.6%となっている。
 ○学校において、児童は他者意識を発揮して相手の立場に立った言葉かけをしたり、態度をとったりすることができていると考えられる。
 ●一方、家庭においては、家族に対してなかなか他者意識を発揮して行動することが難しいようだ。徐々に家族の一員としての自覚を高められるよう、学校と家庭で協働して児童と関わっていくことが必要である。

質問10 健康・運動に関する項目

- (児童) あなたは、決まった時間に寝たり起きたりして規則正しい睡眠をとることができますか。
 (保護者) お子さんは、規則正しい睡眠がとれていますか。
 (教職員) 子どもたちは、規則正しい生活ができていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
10	A	B	C	D
児童	58.0	23.5	16.0	2.5
保護者	59.3	28.4	11.1	1.2
教職員	20.0	80.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

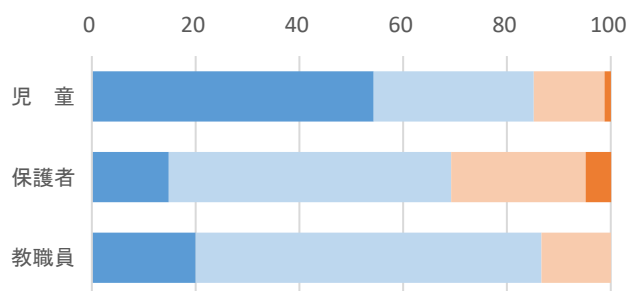
○肯定的な意見は児童81.5%、保護者87.7%、教職員100%である。昨年度と比べると、児童-2.4%、保護者-3.1%、教職員+13.3%である。家庭における評価で低下傾向がみられる。
 ●小学校段階では、徐々に子どもの自我が形成されてくる。その自我を尊重し、大切に育てることは、人権尊重の精神からも学校・家庭で進めなくてはいけないことである。一方で、生活基盤である規則正しい生活習慣の形成には、保護者の積極的な参加が求められる。「ならぬことはならぬ」ことを教えることも自我形成には大切であることを、学校と家庭で共通の認識のもとで対応していくことが必要である。

質問11 健康・運動に関する項目

- (児童) あなたは、おやつなどの間食をひかえ、食事は好き嫌いなく食べていますか。
 (保護者) お子さんは、間食を控え、バランスの良い食事をとっていますか。
 (教職員) 子どもたちは、間食を控え、バランスの良い食事をとっていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
11	A	B	C	D
児童	54.3	30.9	13.6	1.2
保護者	14.8	54.4	25.9	4.9
教職員	20.0	66.7	13.3	0.0

(%)



<学校コメント>

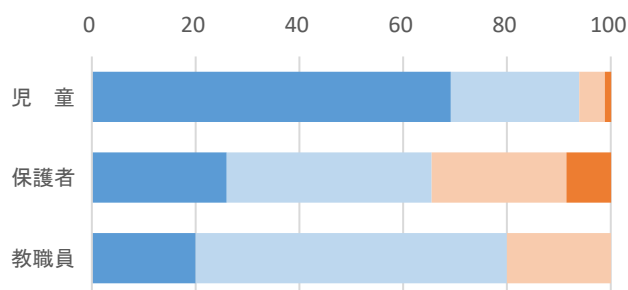
○肯定的意見は児童85.2%、保護者69.2%、教職員86.7%である。昨年度と比べると、児童-5.6%、保護者-6.6%、教職員-6.6%となっており、3者とも評価が下がっている。
 ●望ましい食習慣の形成は、健康な心身を育むために必要不可欠である。望ましい食習慣の形成のために、給食だより等を通して栄養についての理解を深めるとともに、栄養のバランスに配慮した食事についても関心を高められるようにしていく。

質問12 健康・運動に関する項目

- (児童) あなたは、自分の体力を高めようとめあてを持って運動をしていますか。
 (保護者) お子さんは、めあてを持って運動をしていますか。
 (教職員) 子どもたちは、めあてを持って運動をしていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
12	A	B	C	D
児童	69.2	24.7	4.9	1.2
保護者	26.0	39.5	25.9	8.6
教職員	20.0	60.0	20.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的意見は児童93.9%、保護者65.5%、教職員80.0%である。昨年度と比べると、児童+0.7%、保護者-4.7%、教職員-13.3%となっている。
 ○運動会、水泳記録会、陸上大会、マラソン大会、なわとび記録会などの体育的行事及び業間マラソン、業間なわとびでは、児童はそれぞれのめあて達成に向けて尊い努力を積み重ねている。
 ●学校のように「あらかじめ運動が設定されている場」と、家庭のように「選択して運動を設定する場」で評価が分かれていることが推察される。教科体育で幅広く運動に親しむ機会を保障することで、家庭と協働して自ら運動に親しむ児童を育てていきたい。

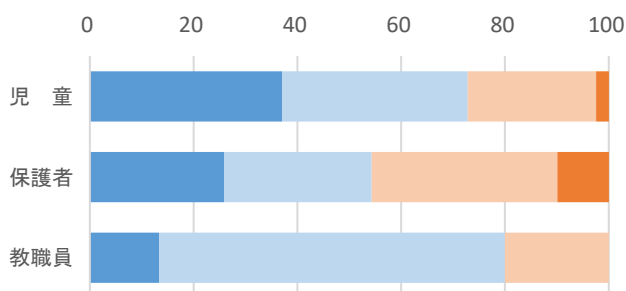
質問13 健康・運動 に関する項目

- (児童) あなたは、家庭ではメディアコントロールのことを考え生活できていますか。
 (保護者) お子さんは、ご家庭でメディアコントロール※はできていますか。
 (教職員) 子どもたちは、家庭でのメディアコントロール※はできていますか。

(※ゲーム、動画視聴は1日1時間以内。ノーメディアデーの日は0時間)

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
13	A	B	C	D
児童	37.0	35.8	24.7	2.5
保護者	25.9	28.4	35.8	9.9
教職員	13.3	66.7	20.0	0.0

(%)



<学校コメント>

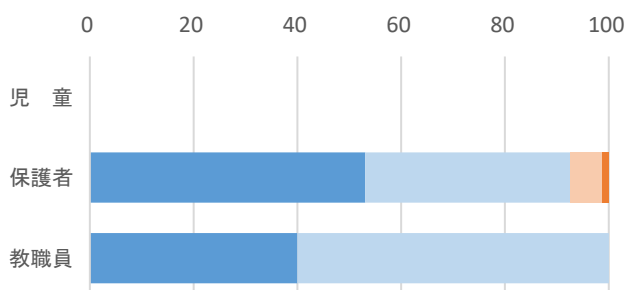
○肯定的な意見は児童72.8%、保護者54.3%、教職員80.0%である。昨年度と比べると、児童-15.7%、保護者-6.6%、教職員+33.4%となっている。
 ○今年度は家庭が中心となってメディアコントロールに取り組んでいることから、児童も保護者もより具体的に振り返りが行えたことで、メディアコントロールへの意識が高まっていると考えている。特に、児童の深い自省があることから、保護者や教職員の接し方いかんで自省に裏付けられた行動が表出する可能性が期待できる。
 ●効果的な取り組みなどの情報を発信していくことで、今後の改善を期待したい。

質問14 学校運営 に関する項目

- (児童)
 (保護者) 先生は、子ども一人一人の様子をとらえ、その子の努力を認めて生かすように努めていますか。
 (教職員) 子ども一人一人の様子をとらえ、その子の努力を認めて生かすように努めていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
14	A	B	C	D
児童				
保護者	53.1	39.5	6.2	1.2
教職員	40.0	60.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的意見が保護者92.6%、教職員100%である。昨年度と比較すると、保護者-3.9%、教職員±0%である。
 ●保護者のC群は昨年度比+3.9%となっている。教職員が児童を称賛するタイミングを的確にとらえること、具体的に褒めることをより一層意識して児童の見取りを進めたい。

質問15 学校運営 に関する項目

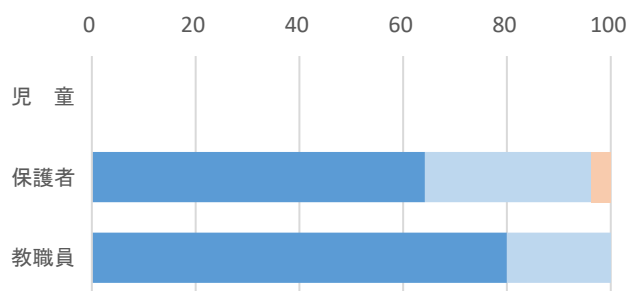
(児 童)

(保護者) 学校は、いじめがない温かな学級づくりに努めていますか。

(教職員) いじめがない温かな学級づくりに努めていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
15	A	B	C	D
児 童				
保護者	64.2	32.1	3.7	0.0
教職員	80.0	20.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者96.3%、教職員100%であった。昨年度と比べると、保護者の肯定的な意見は-3.7%であるのに対し、C群は+3.7%となっている。

●受容的で支持的な学級風土を醸成することで、児童は学級の中に自分の居場所を感じることができる。そのために、教職員の言葉遣いから改めて見つめるとともに、学校全体でも受容的で支持的な雰囲気醸成に努めていく。

質問16 学校運営 に関する項目

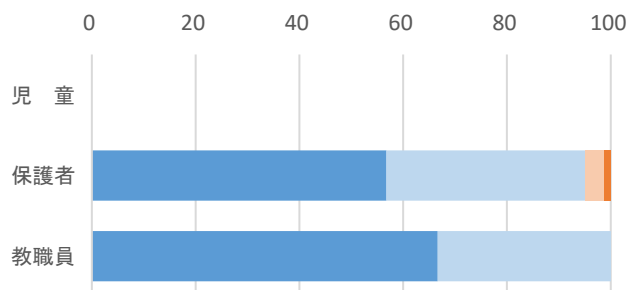
(児 童)

(保護者) 学校は、お子さんの悩みや相談に対して親身になって対応していますか。

(教職員) 子どもたちの悩みや相談に対して親身になって対応していますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
16	A	B	C	D
児 童				
保護者	56.8	38.3	3.7	1.2
教職員	66.7	33.3	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者95.1%、教職員100%であった。昨年度と比べると、保護者の肯定的な意見は-1.5%であるのに対し、D群が+1.2%となっている。

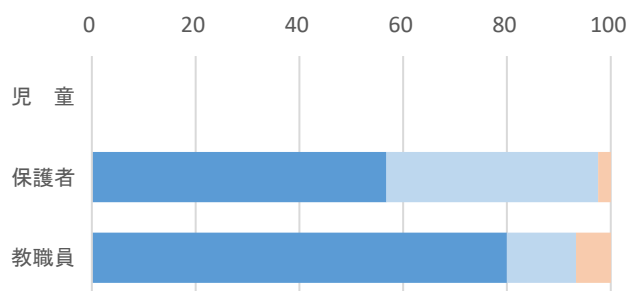
●保護者のC群に3.7%、D群に1.2%の評価がある。教職員としては児童一人一人と向き合っているつもりではあるが、児童の心に寄り添うことができたかどうか問われていると考えている。教職員が一丸となって児童一人一人に心を寄せながら生活を共にすることを、さらに意識化する必要がある。

質問17 学校運営に関する項目

- (児 童)
 (保護者) 学校は、保護者や地域の要望に迅速に対応していますか。
 (教職員) 保護者や地域の要望に迅速に対応していますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
17	A	B	C	D
児 童				
保護者	56.8	40.7	2.5	0.0
教職員	80.0	13.3	6.7	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者97.5%、教職員93.3%であった。昨年度と比べると、保護者-0.2%、教職員-6.7%となっている。

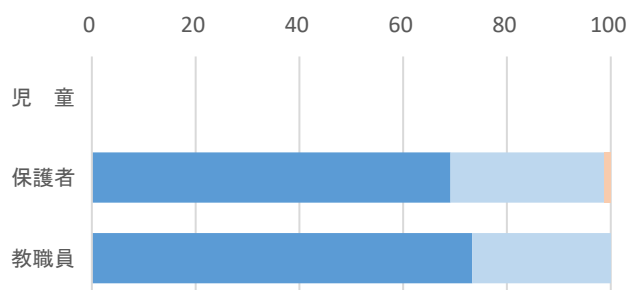
●学校側の考え・願いと、保護者から寄せられる思い・考え・願いのすり合わせや対応の優先順位、対応したことの周知方法など、改善していかなければならない要素がある。学校・家庭・地域が協働して学校運営に取り組むことで、「地域とともにある学校」を確立していきたい。

質問18 学校運営に関する項目

- (児 童)
 (保護者) 学校は、教育活動の様子を各種便りや、学校ホームページ等で分かりやすく伝えていますか。
 (教職員) 教育活動の様子を各種便りや、学校ホームページ等で分かりやすく伝えていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
18	A	B	C	D
児 童				
保護者	69.1	29.7	1.2	0.0
教職員	73.3	26.7	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者98.8%、教職員100%であった。昨年度と比べると、保護者-0.1%、教職員±0%であった。

●学校での活動の様子をできる限り家庭・地域に届けたいという願いと、個人が特定できるような写真の掲載を見合わせるなどの配慮とのバランスを考えて取り組んでいきたい。

質問19 学校運営 に関する項目

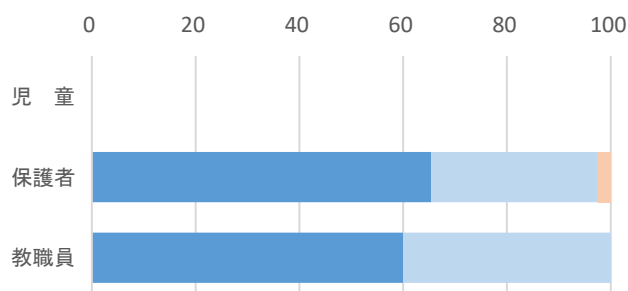
(児 童)

(保護者) 学校は、教育環境を整備し、美化・安全管理に気を配っていますか。

(教職員) 教育環境を整備し、美化・安全管理に気を配っていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
19	A	B	C	D
児 童				
保護者	65.4	32.1	2.5	0.0
教職員	60.0	40.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者97.5%、教職員100%であった。昨年度と比べると、保護者の肯定的な意見は-2.5%であるのに対し、C群は+2.5%となっている。

●昨年度の保護者のA群は75.9%だった。今年度も肯定的に評価してくださっているものの、質的には昨年度よりも低くなっている。通学路の改善、校庭樹木の高齢化に伴う倒木の危険防止のための伐採、統合に伴う校舎等営繕工事など、教育環境及び安全面の質的向上が図られているが、家庭及び地域への周知がなされていない現状もあった。情報発信の在り方を改めて考えていきたい。

質問20 学校運営 に関する項目

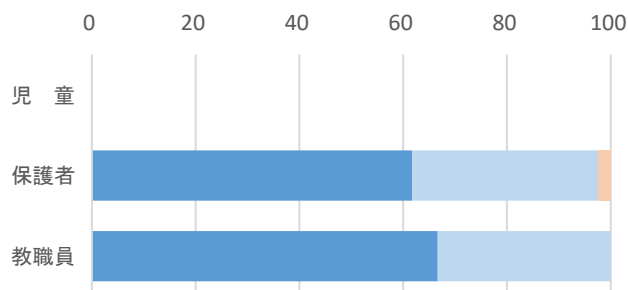
(児 童)

(保護者) 学校は、PTA、地域、関係機関との連携を適切に行っていますか。

(教職員) PTA、地域、関係機関との連携を適切に行っていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
20	A	B	C	D
児 童				
保護者	61.7	35.8	2.5	0.0
教職員	66.7	33.3	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者97.5%、教職員100%であった。昨年度と比べると、保護者-1.4%、教職員±0%となっている。

○学校支援ボランティアによる地域自然とのかかわりや、関係諸機関との連携による児童支援など、専門的な見地からの活動支援・児童支援をいただくことができた。

○今年度もPTA奉仕作業や資源回収では、地域総出で協力をいただいたおかげで、学習環境が整備されるとともに、学習活動支援費が充実した。

質問21 その他 に関する項目

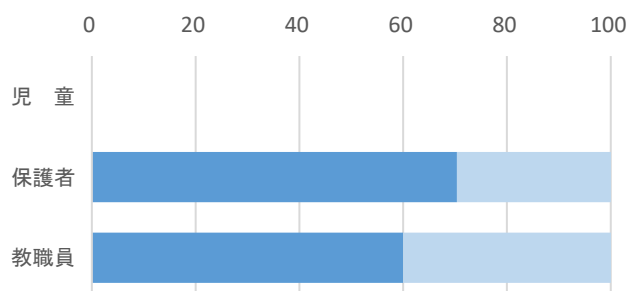
(児 童)

(保護者) 学校は、命の大切さを教え、健康や安全を意識した生活ができるよう健康教育や防災教育に力を入れている。

(教職員) 命の大切さを教え、健康や安全を意識した生活ができるよう健康教育や防災教育に力を入れている。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
21	A	B	C	D
児 童				
保護者	70.4	29.6	0.0	0.0
教職員	60.0	40.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者・教職員ともに100%であった。特にA群の評価が保護者の方が高かったことは、価値があると考えている。

○今後も健康面・安全面を最優先した学校運営に努めていく。

質問22 その他 に関する項目

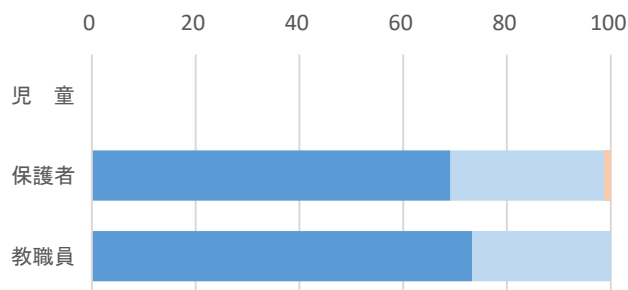
(児 童)

(保護者) 学校は、様々な体験的な活動を取り入れ、自然や地域社会と深く関わる機会を設けている。

(教職員) 様々な体験的な活動を取り入れ、自然や地域社会と深く関わる機会を設けています。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
22	A	B	C	D
児 童				
保護者	69.1	29.7	1.2	0.0
教職員	73.3	26.7	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

○肯定的な意見は保護者98.8%、教職員100%であった。昨年度と比べると、保護者-1.3%、教職員±0%となっている。

○学校支援ボランティアの活用により、学校園整備、高柴山登山、堂山王子神社への見学学習、収穫・感謝祭の開催など、通年にわたり地域社会と関係を構築してきた。

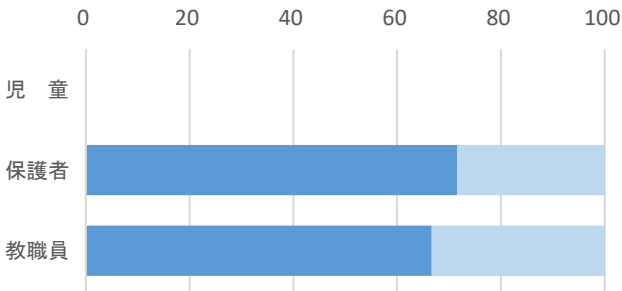
●地域素材を活用した学習活動の在り方については、目的を明確にしながら誰に・どこで・どのような活動を仕組んでいくことが効果的なのか、今後も工夫していくことが求められる。

質問23 その他 に関する項目

- (児 童)
(保護者) 学校は、地域の人々や専門家による指導など多くの人と触れあい学ぶ活動を行って
(教職員) 地域の人々や専門家による指導など多くの人と触れあい学ぶ活動を行っていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
23	A	B	C	D
児 童				
保護者	71.6	28.4	0.0	0.0
教職員	66.7	33.3	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>

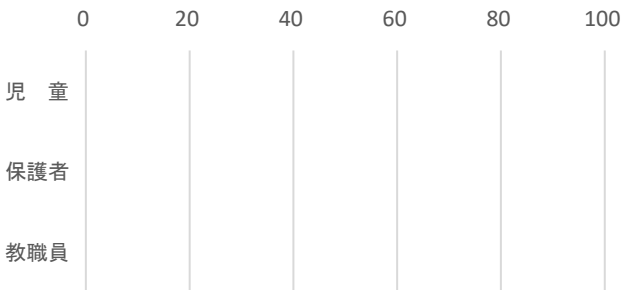
○肯定的な意見は、保護者・教職員ともに100%であった。
○毎日児童の通学路の安全を守ってくださる駐在所警察官・地区交通安全協会の方々・各地区区長様・地域住民の皆様、学校畑を絶えず気にかけてくださる農家の方々・学校支援ボランティアの方々、生活科・社会科見学で快く児童の見学を引き受けてくださった地域のお店・企業の方々、奉仕作業や資源回収では地域総出で取り組んでくださるなど、学校の諸活動は地域の人々からのお力添えをいただくことで進めることができた。心より感謝申し上げる次第である。

質問24 その他 に関する項目

- (児 童)
(保護者)
(教職員)

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
24	A	B	C	D
児 童	0.0	0.0	0.0	0.0
保護者	0.0	0.0	0.0	0.0
教職員	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)



<学校コメント>